

★マリガヤハウス便り★ ★河野 尚子★

【2013年マリガヤハウスクリスマス会開催】

2013年マリガヤハウスクリスマス会は通常より少し早い2013年11月24日に開催されました。そして30人近くのJFC母子達が参加してくれました。お母さん達は11月中旬からオフィスのクリスマスデコレーションやプレゼントのラッピングをしてくれ、当日の会の司会進行はJFC奨学生達がやってくれました。今年も食事は1家族1品の持ち寄りにして、オフィスからは子ども達が大好きなフライドチキンをたくさん作りました。今年もお料理上手のアンゲオさんがキッチンで頑張ってくれました。



毎年司会進行はJFC奨学生の中でもATE(お姉さん)とKUYA(お兄さん)のJFCが担当しています。今年はJFC奨学生の中でも恥ずかしがりやで口数の少ないユキが一番年上なので、司会進行担当になりました。彼女は昨年母親を突然亡くしてしまい、現在は全く血のつながらない近所の方が面倒を見てくれています。全く自分の意見を言わずコミュニケーションを取りにくい性格だったので、司会進行を任せるのは負担にさせてしまったのかもしれないと思っていたのですが、なんと！彼女は進んで進行をし、ゲームに参加する母子達を仕切ってくれました。ゲーム内容も彼女が積極的に提案をしていました。スタッフもJFCの保護者達も彼女の成長に驚いたと同時に、彼女の成長を見ることができて喜んでいました。

そんなユキが考えたゲームで一番盛り上がったのは菓子食い競争です。このゲームはマリガヤハウスでは初めての試みだったのですが、全員で思いっきり楽しむことができました。母親達も菓子食い競争に参加しましたが、やはり真剣勝負ですね。怪我人が出なくて良かったです…。今年マリガヤハウスを訪問してくださった方々が持ってきてくださった文房具がたくさんあり、子ども達にたくさん配ることができました。また、現金のご寄附もいただきましたので、各家族にフィリピンのクリスマスには欠かせないスパゲッティやフルーツカクテルなどの食材を購入して詰めた袋を一つずつ配りました。母子達はたくさんのプレゼントを抱えて本当に嬉しそうでした。今年も母子達はクリスマスを迎えることができ、喜びを分かち合うことができました。ご寄附・ご支援してくださった皆様、どうもありがとうございました。

【マリガヤハウス アイセックインターン紹介】

◆マリガヤハウスではJFC支援活動と一緒にしてくれるボランティアやインターンを受け入れています。2014年春から約6週に渡りこの春、マリガヤハウスでインターンとして活動する3人の学生をご紹介します。

初めまして。南山大学1年の富永麻友美です。私がこのインターンシップに参加するきっかけとして、かつてここマリガヤハウスでインターンシップをしていた大学の先輩の存在があります。私はその先輩のお話を聞くまで、JFC問題に



ついて知りませんでした。日本人が深く関わっている問題だからこそ、日本人として子ども達のために何かしたいと感じました。国籍申請のための書類翻訳などのお仕事を通じ、JFCの子ども達が幸せになるお手伝いができたらな、と思います。1か月半、精一杯活動していきたいです。

◆こんにちは。神戸大学1年の尾形阿友美です。私は将来、法律関係の職業に就きたいと考えており、法的支援を行うNGOのマリガヤハウスに興味を持ち、インターンシップに参加することにしました。研修1週間目が過ぎ、これまでに国籍申請書類の作成とワークショップ企画を行いました。書類作成では自分がしていることにJFCの人生がかかっているという大きな責任を感じ、また、企画運営にあまり携わったことがない私にはワークショップの企画も難しく感じることもありましたが、しかし何事にも挑戦する気持ちで日々の活動に取り組んでいきたいです。短い間ですがどうぞよろしくお願いいたします。



◆こんにちは。京都大学1年の能勢隆志です。ここを選んだ理由は、JFCの問題を以前は知らなかったのですが、もっと深く知りたい、日本人として手助けをしたいと思ったからです。研修開始後印象的だったのは、JFCの国籍申請をしに日本大使館に行く機会があり、JFCの漢字名を決めることになった時のことです。その子は自分と同じタカシという名前でも、自分の漢字に込められた意味を説明したところ気に入ってくださり、隆志という漢字で登録することになりました。その時の感情は今まで感じたことのないような特別な気持ちで一杯でした。また、無事に日本国籍を取得できたことで安心したとともにある人の一生がかかっている重大な仕事をしていることを実感しました。最後まで全力で頑張ります。



【Just giving チャレンジ 日本語検定 5 級受験に向けて頑張るサクラさん】



Justgiving チャレンジを頑張るサクラさんが学生インターン達と一緒に日本語勉強を再開しました。担当するインターンからの報告をご紹介します。

自己紹介の後、サクラさんの現在のレベルがどれくらいなのかを把握するべく、彼女にひらがなを最初から最後まで何も見ずに書いてもらいました。しかし、前の日本語教室からのブランクゆえに忘れてしまっているものも多くあり、た行以降が全く書けませんでした。そのため今日は、復習として、ひらがなを正しく書き取り、発音し、聞き取れるようになることを目標に

授業を進めていきました。「ほ」「ね」「ゆ」で突き出すのかが曖昧になっていたり、「ぬ」「め」「の」を混同していたり、書き順が違うものもあったりしたのでその都度指摘しました。何度か五十音図を書いてもらい練習した後、テストをしました。次回以降も五十音図は授業の初めに書いてもらい、基礎の定着を図るつもりです。

次に日本語での数字の呼び方を教え、自分の誕生日等も紹介できるようにしました。最後に私たちが日本語教室第1課の単語を読み上げ、サクラさんにひらがなで書き取ってもらい、意味を教えました。次回第1課の単語テストを行う予定です。

第1回目の授業を終えて、仕方がないことではありますが忘れてしまっている部分が目立ちました。しかし彼女の日本語に対する姿勢はとて意欲的で、休憩時間中も熱心にひらがなの勉強をしてい

MALIGAYA 2014.3.1

ました。またサクラさんのモチベーションアップにつながればと思って、彼女にあげた日本の風景の描かれたポストカードにも大変興味を持ち、日本のアニメのこともよく知っていました。日本語検定5級までは乗り越えるべきハードルも多くありますが、彼女のチャレンジを少しでもサポートできるよう、一杯のことをしていきます。今後ともサクラさんの応援よろしく願います。

マリガヤハウスの主な活動

2013年11月

- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議を開催。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。
- ローカスから依頼されたDNA鑑定実施。
- 新規クライアント受理前にオリエンテーションを開催。
- 新規クライアント登録会議を開催。
- Korean-Filipino Children支援のために活動をしている韓国NGOの訪問を受け入れ。
- クリスマス会開催。
- 日本人弁護士とJFC母子のスカイプミーティングを開催。
- ダバオ在住ケースのDNAサンプル採取のためダバオ出張。
- JFCネットワーク東京事務所理事会・ボランティア会議にスカイプで参加。

2013年12月

- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議を開催。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。

2014年1月

- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議を開催。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。
- ローカスから依頼されたDNA鑑定実施。
- 新規クライアント受理前にオリエンテーションを開催。
- 新規クライアント登録会議を開催。
- JFCネットワーク20周年記念イベント JFCエッセイコンテストのための準備ワークショップをマリガヤハウスJFC達と実施。

2014年2月

- JFCネットワーク奨学生・ソロプチミスト奨学生・在日フィリピン大使館奨学生合同会議を開催。
- 認知後の国籍申請のため在比日本大使館を訪問。
- ローカスから依頼されたDNA鑑定実施。
- 新規クライアント受理前にオリエンテーションを開催。
- 新規クライアント登録会議を開催。
- JFCネットワーク20周年記念イベント JFCエッセイコンテストのための準備ワークショップをCenter for Overseas Workers-Davao (COW-ダバオ) のJFC達と実施。
- シアゾン大使ご夫妻とAmbassador Siazon Welfare Fundの奨学生との交流会に参加。
- フィリピン ジャパン パートナーシップ (PJP) 会議に参加。

パグ アサ
PAG-ASA

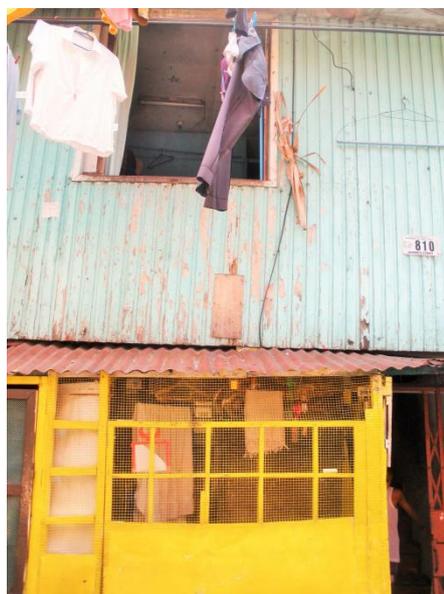
JFC 奨学金基金報告
パグアサー夢・希望
2014年3月号

2014年6月新学期から新しく二人のJFCの奨学金支援を予定しています。今号では新奨学生の一人である、ムサシ・サカタくんの家庭訪問報告をご紹介します。と思います。

ムサシ・サカタくんの社会的・経済的状況

ムサシくんは首都圏の貧困地区であるトンドに住んでいます。家々は互いに隣接して建っていて、小さい子どもたちが道路で遊んでいる姿や、女性達、特に母親達が家の外で近所の住人と談笑している姿を目にします。

彼の家は古く、とても簡素な建物ではありますがきれいに掃除がされている木造アパートメントです。アパートメントには、ムサシくんと彼の妹、そして叔母のロードス ライヨの家族、合計7人が住んでいます。月々家賃は2400ペソ支払っているそうです。アパートメントには一つの部屋と、小さいキッチンと小さいダイニングテーブルのあるリビングルームがあり、最低限必要な家電が置かれてありました。トイレと浴室は共同になっています。それぞれの部屋を持つことはできず、女の子達は床にマットを敷いた部屋で眠り、男の子達はリビングの床で眠っています。



ムサシくんの母親であるイメルダさんは、彼が住むトンド地区から1時間以上も離れた



ブラカン州マロロス市で彼女の姉と暮らしています。以前は母子でブラカン州に住んでいましたが、ムサシくんの妹が性的暴行を受けたため、兄妹をトンド地区の親せき宅に預けました。イメルダさんは市場で魚を売り、一日に200ペソの収入を得ています。彼女の日々の収入はトンド地区に住むムサシくんと妹のために送金されていて、彼女自身の出費はブラカン州で一緒に暮らす彼女の姉が負担してくれています。ムサシくんと妹をトンドに住まわせ、毎日学校に通わせるために彼

女は毎週 1400ペソの収入が必要のため一生懸命働いています。彼女は早朝に漁港で魚を購入し、夜中まで休みなく働いていますが、JFC達を育てていくには十分と言える額の収入を得る事はできていません。

ムサシくんの状況

JFCのムサシは現在 12歳で、トンド地区にあるC.アレリアーノ高校の1年生です。彼の家から学校まではジプニーに乗って約 15分かかり、ジプニーを2回乗り換えて行かなくてはなりません。一日に 50ペソの彼のお小遣いは、紙やテスト用紙などの学校用品に充てて節約を心掛けているそうです。彼の授業は午前 6時 45分に始まり、午後 3時に終わりますが、彼はまず妹を学校へ送るため、家を午前 5時 15分に出ています。学校の成績に関して、彼は学校の平均的な学生ですが、奨学金を受け取ったら、彼はより懸命に勉強して成績を上げるつもりだと言っていました。

母親のイメルダさんによると、ムサシくんは静かな性格で、イメルダさんがブラカン市にいる間、妹の面倒を責任を持ってよく見ているのでとても助かっているそうです。ムサシくんはいつか軍隊に入り活躍したいと思っているそうです。



評価/ソーシャルワーカーの所見

母親とその JFC が経済的困難に陥っているのは明らかです。クライアントは安定した収入がなく、そして彼らは日本人父親から認知を得たものの、養育費を受け取っていません。朝から夜遅くまで働きづめの彼女の生活は、健康面がとても心配されますが、彼女は健康保険カードを持っていません。また、貯金も一切なく、もし彼女が病気で倒れてしまうと彼女だけではなく、二人の JFC 達も教育を受ける事ができなくなり路頭に迷ってしまう事になります。

母親はシングルマザーとして一人で子ども達を育てているという事実に関わらず、子ども達にとって良い母親のようです。彼女は子ども達のために犠牲を払うことを厭わず、また、彼女は教育の重要性を理解しています。

また、ムサシくんはマリガヤハウスの奨学生となる可能性を持っています。彼の成績は平均的で一般的な学生ではありますが、それを向上させる能力を持っていると思います。彼は物静かで内気のように見えますが、奨学生会議に出席をして仲間達と一緒に過ごす事で、リーダーシップを取れるようになると思います。母親が生活のためにブラカン州で働いている間も、マニラ市で妹のユカリの世話をみていることから、彼は責任感がある良い学生となるでしょう。ムサシくんがマリガヤハウスの奨学金を受け取ることを強く推薦します。